

シンポジウム 15：在宅医療の希望を叶えるための退院支援のあり方

演題名	在宅療養の現場を受け持つ立場から
-----	------------------

概要

退院後の現場を引き受ける診療所医師及び関連職種の視点から、退院時の連携の在り方に関する問題、矛盾等に関してお話をさせていただきます。

退院支援を行う MSW や看護師は多くの現場で人手が足りず、多忙を極めていることは想像に難しくありません。しかし、病院側のスピード感と同じレベルでの対応を在宅医療導入に関して求められた時、少なくない問題が出てきます。

例えば訪問診療の対象となる方の自宅退院に際しては、多くの新規サービス導入が必要となります。しかし、病気そのものの対応で既に心身共に疲弊している本人・家族にとって、退院直後から新たに始まる医療・介護職との関係性の構築やサービス契約の数々は、苦痛そのものでしかありません。患者が重症であるほど、病院側から求められるままに十分な準備が行えていない状態で在宅医療・介護サービスを導入することが多く、導入に際しての僅かなミスや不手際が、患者本人・家族の在宅療養への不安を「やはり在宅療養は無理」だという確信に変えてしまい得ます。

どうしたら患者や家族がスムーズに不安なく病院から在宅療養へ移行出来るのか、さらには医療・介護職が安心して在宅療養に関われるのか、その解決の糸口がこのシンポジウムを通して得られたらと思います。